

# 2025年度 社会連携教育科目 講義概要（シラバス）



法政大学

# 科目一覧

〔発行日：2025/5/1〕 最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

## 凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目	〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目	〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs	〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ	〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル	

【A9852】 社会連携フィールドワーク（ベーシック）〔三田地 真実〕 秋学期集中/Intensive(Fall) .....	1
【A9853】 社会連携フィールドワーク（ベーシック）〔コーディネータ：武貞 稔彦、講師（ゲストスピーカー）：イオンフィナンシャルサービス株式会社〕 オータムセッション/Autumn Session .....	3
【A9855】 社会連携フィールドワーク〔高見 京太、深野 聡〕 サマーセッション/Summer Session .....	5
【A9860】 社会連携講座（ベーシック）〔コーディネータ：武貞 稔彦、講師（ゲストスピーカー）：イオンフィナンシャルサービス株式会社〕 春学期授業/Spring .....	7
【A9861】 社会連携講座（アドバンス）〔高見 京太、佐野 竜平、深野 聡〕 秋学期授業/Fall .....	9
【A9864】 社会連携PBL（アドバンス）〔高田 朝子、菅谷 正美〕 オータムセッション/Autumn Session .....	12
【A9865】 社会連携講座（ベーシック）〔佐野 哲〕 春学期授業/Spring .....	14
【A9866】 社会連携講座（ベーシック）〔佐野 哲〕 秋学期授業/Fall .....	16
【A9867】 社会連携講座（ベーシック）〔コーディネータ：高田 朝子、講師（ゲストスピーカー）：イオンフィナンシャルサービス株式会社〕 春学期授業/Spring .....	18
【A9868】 社会連携講座（ベーシック）〔コーディネータ：武貞 稔彦、講師（ゲストスピーカー）：特定非営利活動法人 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会〕 秋学期授業/Fall .....	20
【A9869】 社会連携講座（ベーシック）〔コーディネータ：武貞 稔彦、講師（ゲストスピーカー）：株式会社オリエントコーポレーション〕 秋学期授業/Fall .....	22



CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

**社会連携フィールドワーク (ベーシック)****三田地 真実**

開講時期：秋学期集中/Intensive(Fall) | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他 | キャンパス：

備考（履修条件等）：

その他属性：〈カ〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

カーボンニュートラルを達成するために、地球規模の環境・社会問題の構造の理解を深める。具体的には、カーボンニュートラルを推進している企業・自治体・大学等の取組について学ぶために、実際の企業の施設見学、法政大学各キャンパスの施設見学及び実験等のフィールドワークを実施する。最終回の授業では、これらの学びの集大成として法政大学へのカーボンニュートラルに関する取組の提案発表をチームとして行う。そのために、各授業回でグループワークの時間をもち、そこでは様々な問題解決のために必要な話し合いの技術であるファシリテーションも学ぶことを目的とする。

**【到達目標】**

1. コンテンツ（学習内容）のゴール：

カーボンニュートラルを達成するために、地球規模の環境・社会問題の構造の理解を深め、身近なところからアクションを起こすことができる。

2. プロセス（学習過程）のゴール：

環境・社会問題を解決していくための話し合いの技術（ファシリテーション）を学び、他の課題解決に対しても応用できる（毎回、ファシリテーションミニ講座を設定）。

3. 最終課題：

法政大学に対し、チームでカーボンニュートラルに関する取組の具体的な提案を行う。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

毎回の授業の基本的な内容は、下記のとおり。

① ゲストスピーカー（企業、自治体及び本学専任教職員）による講義

② フィールドワーク（企業及び本学の施設見学等）

③ ①②を踏まえたグループワーク

最終回の授業では、法政大学に対してカーボンニュートラルに関する取組の提案をチームでプレゼンテーションする。本学専任教職員が審査員としての講評を行う。

なお、毎回の授業終了後には各自で記入するリアクションペーパーを課し、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体にフィードバックを行うほか、最終プレゼンテーションに対して講評を行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり /Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり /Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回～	ガイダンス	9月20日（土）市ヶ谷キャンパス
第2回	取組紹介（1） 法政大学の取組	授業全体のオリエンテーション 目的・進め方・内容等の説明 ゲストスピーカー： 法政大学施設保全部 ・法政大学の取組の説明 社会学部 澤柿教伸 教授 ・診断医としての南極観測隊 ・人新世におこる南極の異変 ・イノベーションを起こすとき グループワーク

第3回～ 取組紹介（2）  
第4回 法政大学の取組  
(小金井キャンパス)

第5回～ 取組紹介（3）  
第6回 法政大学の取組  
(多摩キャンパス)

第7回～ 取組紹介（4）  
第8回 東京電力の取組

第9回～ 取組紹介（5）  
第10回 積水ハウスの取組

第11回～ 取組紹介（6）  
第12回 日産自動車・千葉県の取組

第13回～ 最終プレゼンテーション  
第14回 ション  
授業全体のまとめ

10月4日（土）小金井キャンパス  
ゲストスピーカー：  
理工学部 岡本吉史 教授  
生命科学部 渡邊雄二郎 教授  
・鉱物によるCO2固定、回収  
・二酸化炭素濃度の測定  
グループワーク

10月11日（土）多摩キャンパス  
ゲストスピーカー：  
池田寛二 名誉教授（元社会学部教授）  
社会学部 鞠子茂 教授  
・多摩キャンパスの森林からカーボン・ニュートラルを考えよう  
・森林とカーボン・ニュートラルの複雑な関係  
・世界の森林の現状と課題  
・国土の7割近い日本の森林と気候変動  
・多摩キャンパスの森林の過去・現在・未来  
グループワーク：

多摩キャンパスの森林のカーボン・ニュートラル効果をもっと高めるために学生はどんなアクションを起こすことができるか  
10月25日（土）  
東京電力エネルギーパートナー本社（中央区）  
ゲストスピーカー：  
東京電力エネルギーパートナー株式会社

・講義  
・施設見学  
グループワーク

11月8日（土）  
積水ハウス資源循環センター（茨城県古河市）  
ゲストスピーカー：  
積水ハウス株式会社

・講義  
・施設見学  
グループワーク

11月15日（土）日産自動車本社（横浜市）  
ゲストスピーカー：  
日産自動車株式会社  
千葉県庁

・講義  
・施設見学  
グループワーク

12月6日（土）市ヶ谷キャンパス  
・法政大学へのカーボンニュートラルに関する取り組みの提案（チームでのプレゼンテーション）  
・講評  
・授業全体の省察

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

最終プレゼンテーションの準備は授業時間以外にも実施予定。本授業の予習時間・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

テキスト（教科書）は使用しない。

**【参考書】**

■カーボンニュートラル関連の参考図書等は以下の通り。（（※）は全文ダウンロード可）  
野村総合研究所編（2022）カーボンニュートラル、日経文庫  
法政大学多摩環境委員会（2014）多摩キャンパス：自然と生物（※）  
[https://www.hosei.ac.jp/application/files/2615/7137/8082/tama\\_houkokusyo\\_2014.pdf](https://www.hosei.ac.jp/application/files/2615/7137/8082/tama_houkokusyo_2014.pdf)

森林立地学会編（2012）森のバランサー植物と土壌の相互作用、東海大学出版  
資源エネルギー庁スペシャルコンテンツ（キーワード検索すると関連記事が出てきます）：

<https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/johoteiky/ondankashoene/>

脱炭素ポータル：

[https://ondankataisaku.env.go.jp/carbon\\_neutral/](https://ondankataisaku.env.go.jp/carbon_neutral/)

その他、授業中に適宜配付する。

■ファシリテーション関連の参考図書等は以下の通り。((※)は全文ダウンロード可)

Justice, T. & Jamieson, D. W. (2012) The Facilitator's Fieldbook: Step-by-step Guides Checklist and Worksheet (3rd ed.), Harpercollins Leadership.

三田地真実（2018）学生の行動を軸に見据えて、「機能するグループワーク」を企画・実施するためにー行動分析学とファシリテーションの視点から、法政大学教育研究、9、27-39。（※）

[https://researchmap.jp/mami\\_mitachi/published\\_papers/36796477](https://researchmap.jp/mami_mitachi/published_papers/36796477)

三田地真実（2022）対面授業のビデオ記録を活用した省察ー経済学大人数授業アクティブ・ラーニング型授業での実践、名古屋高等教育研究、22、245-260。（※）

[https://researchmap.jp/mami\\_mitachi/published\\_papers/36796477](https://researchmap.jp/mami_mitachi/published_papers/36796477)

中野民夫（監修）三田地真実（2013）ファシリテーター行動指南書ー意味ある場づくりのために、ナカニシヤ出版

中野民夫・三田地真実（編著）（2016）ファシリテーションで大学が変わるーアクティブ・ラーニングにいのちを吹き込むには、ナカニシヤ出版

■リーダーシップ×行動分析学関連の参考図書は以下の通り。((※)は全文ダウンロード可)

島宗理（2015）リーダーのための行動分析学入門、日本実業出版社  
三田地真実（2009）環境との相互作用から理解する人間行動ー応用行動分析学（ABA）の視点から、人間環境論集（法政大学人間環境学会）、10、23-42。（※）

[https://researchmap.jp/mami\\_mitachi/misc/22821962](https://researchmap.jp/mami_mitachi/misc/22821962)

#### 【成績評価の方法と基準】

- ・各授業回におけるリアクションペーパー 40%
- ・最終プレゼンテーション（法政大学へのカーボンニュートラルに関する取り組みの提案） 30%
- ・最終レポート 30%

#### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果を反映し、FWでの学びをより体系的かつ効果的に深めるため、授業の順番を見直して実施する。

#### 【その他の重要事項】

- ・本科目は、9月20日、10月4日、10月11日、10月25日、11月8日、11月15日、12月6日の計7日間で実施する。
- ・授業の時間帯（時限）は、3限～4限を基本とする。ただし、学外フィールドワーク実施日（10月25日、11月8日、11月15日）においては、時間が変更になる場合がある。そのため、本科目を履修する場合は、秋学期土曜日に他の科目を履修することはできない。（具体的な授業時間は13:10～16:40を基本とするが、10/25、11/8、11/15は17:00終了を予定、12/6は13:10～15:50を予定している。この時間枠は変更になる場合があるので初回授業で確認すること。）
- ・定員（25名程度）を超過した場合は、抽選を行う。
- ・初回授業までに、オンデマンドシステム（<https://hosei-kyoiku.jp/ondemand/>）から「カーボンニュートラル推進リーダー育成プログラム」の『なぜカーボンニュートラルの実現を目指す必要があるのか』を必ず視聴し、学習支援システムからミニレポートを提出すること（視聴履歴及び提出状況を確認します。提出方法等の詳細については、学習支援システムで周知します）。
- ・授業に関する質問については、授業の前後、学習支援システムで受け付ける。
- ・授業開講中の毎回のミニレポートなどの提出は、本授業に関してはGoogle Classroomを使用する予定である。詳細については、初回授業で説明する。
- ・フィールドワーク先への交通費、昼食代等は、自己負担となる。

#### 【Outline (in English)】

#### 【Course Description】

This course offers students an opportunity to understand environmental and social issues globally in order to achieve carbon neutrality. Students will participate in several field works, including commercial companies, local governments, and universities that have promoted carbon neutrality. At the end of the course, students are expected to present proposals to Hosei University as a team to enhance their carbon-neutral environment. Students will learn facilitation techniques throughout the course in order to promote group projects.

#### 【Course Objectives】

The course will provide students with the opportunity to learn: Content (Learning Material) Goals:

- ・ To understand the structure of global environmental and social issues to achieve carbon neutrality.
- ・ To take action in daily situations.

Process (Learning Process) Goals:

- ・ How to facilitate group discussions to solve environmental and social problems.
- ・ To apply facilitation skills to other problem-solving situations.

Final Assignment:

As a team, student must present concrete proposals for carbon-neutral initiatives to Hosei University

【Learning Activities Outside of Classroom】

Preparation for the final presentation will occur outside of class hours. The standard time allocated for preview and review for this course is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policies】

Reaction papers in each class session: 40%

Final presentation (proposal for carbon-neutral initiatives at Hosei University): 30%

Final report: 30%

CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

**社会連携フィールドワーク (ベーシック)**

コーディネータ：武貞 稔彦、講師（ゲストスピーカー）：  
イオンフィナンシャルサービス株式会社

開講時期：オースタムセッション/Autumn Session | 単位数：2  
単位

曜日・時限：集中・その他 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

イオングループが事業展開する小売をはじめ、金融、サービス事業等について理解し、職場体験等を通じてグループ各社の仕事について理解を深めると共に、地域文化・風土の理解、グローバル思考の醸成、企業としての社会的役割などを学んでいただくことが本授業の目的です。

本科目の履修に際しては、「社会連携講座（ベーシック）生活に関わるお金の知識講座」を履修済みであることが望ましいですが、本科目を履修するうえでの必須条件ではありません。

尚、当実習は複数大学合同で実施します。協力体制の下で、グループワークに取り組んでいただき、相互理解・視野の拡大を図り、ビジネス提案を発表します。

**【到達目標】**

・学生は、グローバル社会における国際的な倫理観に関する情報、課題テーマに関する知識を自ら収集し、分析するスキルを身につけ、活動するための実践的なコミュニケーション能力や他者を巻き込みながらプロジェクトを遂行するために必要な指導力の重要性を理解することができるようになります。

・学生は、この授業を通じて、自らの体験をそれぞれが専攻する学問の体系と関係づけ、将来社会人として活動するために必要な知識や能力について考察を深め、自らのキャリアの展望について考察を深めることができるようになります。

Students will be able to acquire the skills to collect and analyze information on international ethics and knowledge on issue themes in a global society, and understand the importance of practical communication skills for activities and the leadership skills needed to carry out projects while involving others. Students will be able to relate their own experiences to the academic system of their major, deepen their reflection on the knowledge and abilities necessary to work as a member of society in the future, and deepen their consideration of their own career prospects.

**【Work to be done outside of class】**

Industry analysis, company analysis, self-analysis, reflection, and preparation for the results presentation will be assigned as out-of-class study. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-IV」「法政DP-VI」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

[https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui\\_juyo/](https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/)

**【授業の進め方と方法】**

国内編5日間・海外編5日間ともに集合（対面）形式で実施します。合計10日間、他大学の学生と合同での実習です。前半はイオンフィナンシャルサービスおよびグループの国内拠点企業、後半は同グループの海外拠点企業が担当します。業務内容の説明や就業体験、社員とのセッションを通じ、業務内容への理解を深めます。

また、実習前に事前学習を実施します。金融基礎や業界分析方法をレクチャーし、実習での理解度を高めます。実習後の事後学習では、自らの学びやグループワークでの役割等の振り返りと共に、今後の目標を考えます。※提出された課題や振り返りについては、実習中に適宜フィードバックします。

<授業スケジュール（予定）>

8月上旬～から9月上旬に実施予定です。詳細な日程は、確定し次第、学習支援システムにてお知らせするため、本授業の受講を検討している学生は、学習支援システムにて仮登録を行ってください。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり /Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり /Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	事前学習①	金融基礎を学び、イオンの金融事業を理解する。企業分析。
2	事前学習②	ビジネスフレームワーク、海外調査（マレーシア）
3	国内外での就業体験付き実習（国内編）①	オリエンテーション、目標設定、イオン金融事業について、国内金融事業会社の業務紹介
4	国内外での就業体験付き実習（国内編）②	企業の歴史を理解する、金融事業会社の拠点（店舗）見学、フィールドワーク
5	国内外での就業体験付き実習（国内編）③	職場体験、グループワークにてプレゼンテーションテーマ討議
6	国内外での就業体験付き実習（国内編）④	グループワーク、プレゼンテーション資料作成、概要発表
7	国内外での就業体験付き実習（国内編）⑤	プレゼンテーション、社員との座談会、国内編まとめ。イオン金融事業の海外展開について
8	国内外での就業体験付き実習（海外編）①	海外編オリエンテーション、現地のビジネス展開、現地視察
9	国内外での就業体験付き実習（海外編）②	海外の金融事業紹介（マレーシア、他）
10	国内外での就業体験付き実習（海外編）③	部署紹介、現地社員とのワークセッション（英語）
11	国内外での就業体験付き実習（海外編）④	プレゼンテーション資料作成（英語）、発表リハーサル
12	国内外での就業体験付き実習（海外編）⑤	プレゼンテーション（英語）、社員との座談会、研修まとめ
13	事後学習①	業界・企業研究（自身が興味をもつ業界や企業について3C調査など）
14	事後学習②	体験発表（学びと気づき、自己分析）、課題発表

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

業界分析、企業分析、自己分析、振り返り、成果報告会プレゼンテーション準備などを授業外学習として課します。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しません。

**【参考書】**

資料については開講時に指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

期間中に目指す「個人目標」を設定。毎日の「振り返り」、最終日にまとめレポート（個人目標の達成度等含む）提出（60%）、積極的な参加姿勢やグループワークでの役割等（40%）を主たる評価とします。

The main evaluation will be based on daily reflections and the submission of a summary report (including the degree of achievement of set personal goals) on the last day (60%), and active participation, role in group work, etc. (40%).

**【学生の意見等からの気づき】**

グループワークでは一人一人の役割の大切さを実感した、プレゼンテーションテーマである新規サービスの提案では「ビジネス視点の考え方」を学ぶことができた、多くの声をいただきました。各自でインターンシップ期間中の目標設定をしますが、多くの学生が達成し更に新しい目標を持つことができています。今回は国内編・海外編ともに集合（対面）で実施としていますので、活発なグループワークディスカッションやプレゼン準備となるよう工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションに向け、パワーポイント資料の作成を行ってもらいます。資料作成や情報収集のためパソコンを準備してください。実習会場ではwi-fiを整備しますが、会場外やフィールドワーク時にパソコンを使用する場合はWi-Fi等通信機器を準備してください。Word、Excel、PowerPointは使用可能な状態にしておいてください。

【その他の重要事項】

- ・国内編は、イオンフィナンシャルサービス株式会社（神保町、本郷、一部幕張を予定）での集合形式（対面）です。会場までの交通費は自己負担となります。
- ・海外編は、AEON CREDIT SERVICE (M)BERHAD.（マレーシア・クアラルンプール）での集合形式（対面）です。航空券・宿泊ホテルはイオンフィナンシャルサービスグループにて手配しますが、渡航・宿泊費用（概算20～30万円）は自己負担となります。大学からの補助はありません。
- ・参加者は海外旅行損害保険及びインターンシップ損害賠償保険に加入が必要です。
- ・国内／海外ともに、状況によりスケジュールや内容が変更となる場合があります。
- ・本授業は定員制（35名）です。受講希望者が定員を超えた場合は選抜を実施します。
- ・履修申請については、申請フォーム（<https://forms.gle/tbBiBsw8jA9gfwV7>）を確認してください。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn about the work of each Group company in the retail, financial, and service businesses in which the AEON Group operates, as well as its understanding of local culture and climates, fostering a global orientation, and its social role as a global company.

CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

## 社会連携フィールドワーク

高見 京太、深野 聡

開講時期：サマーセッション/Summer Session | 単位数：1単位

曜日・時限：集中・その他 | キャンパス：多摩

備考（履修条件等）：

その他属性：〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、動物福祉への関心が世界的に高まる中、引退競走馬のアフターケアが重要な課題として注目されています。本授業では、馬の生態や馬産業の基礎知識、競走馬の競技における役割、そして引退後のセカンドキャリアの構築に至るまで、幅広い内容を学びます。これらの学びを基に、フィールドワークを通じて実践的な取り組みを体験し、さらに「人馬のウェルビーイング」という理念について深く理解を深めます。引退競走馬のセカンドキャリア構築がもたらす可能性を多角的に考察し、最終的には、人と馬の双方に健康と幸福をもたらす方法を議論し、その実現に向けた具体的な方策を探ります。

## 【到達目標】

- ・競馬の背景にある文化や学び、さらに人々の交流について理解する。
- ・引退競走馬のセカンドキャリア構築における具体的な手法を習得する。
- ・人馬のウェルビーイングを推進するための効果的なアプローチを発見し、実践に活かす力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-IV」「法政DP-VI」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

[https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui\\_juyo/](https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/)

## 【授業の進め方と方法】

1日目：8月4日（月）

【集合：法政大学川崎校地 / 解散：川崎競馬場】

ガイダンス

競馬、競走馬、人馬のウェルビーイングに関する講義を受講  
川崎競馬場にて、競走馬が躍動する姿を直に見学

2日目：8月5日（火）

【集合：法政大学多摩キャンパス城山校地馬場 / 那須塩原へバス移動】

引退競走馬のリトレーニングおよびグラウンドワークの見学

馬房作業や馬とのふれあい活動を体験

地方競馬および騎手育成の仕組みに関する講義を受講

3日目：8月6日（水）

【地方競馬教養センター】

騎手候補生の訓練馬として活躍する引退競走馬を観察

引退競走馬に支えられながら研鑽を積み騎手候補生の訓練現場を見学  
教養センターの生徒との意見交換

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1(8月4日)	ガイダンス	本授業の概要と目的、到達目標を確認し、フィールドワークを実施する際の受講ポイントを理解する
2(8月4日)	「人馬のウェルビーイング」の基礎知識	人馬のウェルビーイングについての基礎的な事項を理解する

3(8月4日)	競馬の概要	競馬とは何か、地方競馬の業務とは何か、といった、競馬とそれを運営する地方競馬全国協会(NRA)について理解する。
4(8月4日)	競馬場でのレース前の競走馬観察	レース前の馬の様子を観察し、馬の挙動や馬を引率する人の役割を理解する
5(8月5日)	競馬場でのレース中の競走馬観察	馬が見せるレース中の全力疾走とその直後の様子を観察し、馬の能力を理解する
6(8月5日)	引退競走馬のリトレーニングの基礎	リトレーニング手法の一つである「グラウンドワーク」のデモンストレーションを見学し、実務現場を理解する
7(8月5日)	人馬のウェルビーイングの実践（馬房作業）	実馬を展示して引退競走馬に触れながら、生態を理解する
8(8月5日)	人馬のウェルビーイングの実践（馬糞堆肥の活用）	馬の性質を理解するために、人馬のウェルビーイングによる引退競走馬との触れ合いを体験する
9(8月5日)	人馬のウェルビーイングの実践（触れ合い活動）	引退競走馬への理解を深めるため、人馬のウェルビーイングによる引退競走馬の手入れを体験する
10(8月5日)	地方競馬教養センターの基礎知識	地方競馬教養センターの仕組みと役割を理解する
11(8月6日)	騎手候補生の訓練馬として活躍する引退競走馬の観察	騎手候補生の訓練馬として活躍する引退競走馬のセカンドキャリア構築現場を観察する
12(8月6日)	地方競馬教養センターの施設見学	教養センター生徒と受講生が交流の場を持ち、共通の話題として引退競走馬の役割について議論する
13(8月6日)	地方競馬教養センター生徒と受講生の懇談	騎手候補生が日々訓練を積み夢に向かって研鑽を積み教養センター施設を見学する（トレーニングルーム、訓練トラック走路、厩舎など）
14(8月6日)	まとめ	本授業の振り返り、受講者相互のディスカッションを通じて、引退競走馬のセカンドキャリアについて議論する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて、各1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布する

## 【参考書】

人馬のウェルビーイング、高見京太、佐野竜平編著、クリエイツかもがわ、2025。

<https://www.creates-k.co.jp/genre/shakai/10196/>

## 【成績評価の方法と基準】

講義におけるショートレポート：30%

フィールドワークの取り組み：60%

最終レポート：10%

## 【学生の意見等からの気づき】

学生のレポートから、事前学習の充実が現場での理解を深める鍵となることが分かった。特に、騎手の訓練や引退競走馬のセカンドキャリアについての予備知識が不足していたとの意見があったため、事前講義や資料提供を強化する。

## 【その他の重要事項】

- ・本授業は、フィールドワーク先の受け入れ可能人数（20名）が受講人数の上限となります。
- ・受講を希望する学生は、4月9日（水）までに学習支援システムで仮登録を行ってください。
- ・仮登録を行った学生には、学習の目標や意気込みを記入して提出してもらい、科目担当者が評価のうえ、受講者を確定します。
- ・結果通知後、受講が認められた学生の履修登録は大学が行います（学生自身による登録は不要です）。



・原則として、受講許可後の履修登録の削除はできません。開講日程（8月4日～6日）を十分に確認したうえで申し込んでください。

【2日目・3日目の詳細】

① 8月5日（火）

午前中に多摩キャンパス馬術部馬場にてフィールドワークを実施。講義終了後、キャンパスで昼食をとり、その後、教員と受講学生はバスで那須塩原市の地方競馬教養センターへ向かう。

（13:00 多摩キャンパス出発、15:30 教養センター到着予定）

② 地方競馬教養センター到着後

講義およびグループワークを実施し、併設の那須寮に宿泊。

③ 8月6日（水）

早朝よりフィールドワークを実施。その後、昼食を挟み、教養センターの生徒との交流会を行う。

④ すべてのプログラム終了後、帰路へ

14:30 教養センター発、以下のいずれかでバスを下車可能。

JR久喜駅（15:30頃）

JR京王高尾駅（16:45頃）

多摩キャンパス（17:00頃）

⑤ 参加費

受講者が負担する宿泊費および食費（夕・朝・昼）は、一人あたり6,000円。

【Outline (in English)】

Course outline

In this lecture, Based on the philosophy of "Horses and Humans Well-being", the aims of this lecture are to understand the method of building a second career for retired racehorses promoted and learn the original philosophy of welfare and new prospects for diversity.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

-A. Understand the ecology and evolution of horses and experience the dynamism of racehorses.

-B. Understand the method of building a second career for retired racehorses.

-C. Understand Horses and Humans Well-being.

-D. Discuss ways to link horses' and horses' health and welfare, bring about synergistic effects, and find a specific direction.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Grading Criteria /Policy

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short report in a lecture: 30%

Fieldwork efforts: 60%

Final report: 10%

CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

**社会連携講座 (ベーシック)**

コーディネータ：武貞 稔彦、講師（ゲストスピーカー）：  
イオンフィナンシャルサービス株式会社

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：土2/Sat.2 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

現代社会では、金融との関わりを持つことは避けられないため、生活スキルとして「金融リテラシー力（お金に関する知識と判断力）」を身につけることは重要です。金融リテラシーについて体系的に学び、人生と生活を考えるうえで重要な事項を理解し、自分で必要な情報を集め、比較・検討して判断することが出来るようになる実践的な力を身につけて頂くことが本講義の目標です。本講義はイオンフィナンシャルサービス株式会社の寄付講義です。

〈注意〉2025年度春学期市ヶ谷キャンパスにて金曜3限開講の【授業コード：A9867

科目名：社会連携講座（ベーシック）サブタイトル：生活に関わるお金の知識講座】は本講義と同一の内容です。開講時限・授業形態を確認して選択してください。

**【到達目標】**

経済的に自立し、より良い生活を送るために必要な、経済や金融についての知識と判断力を学ぶ。学んだ知識を活かし、適切な金融商品のサービス選択ができ、将来の生活設計（ライフプラン）が作成できるようになる。

The goals of this course are as follows:

・ To understand the financial services related to your own life for making proper decisions.

・ To gain the knowledge for making your own life planning including monetary planning.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-IV」「法政DP-VI」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

[https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui\\_juyo/](https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/)

**【授業の進め方と方法】**

講師が交代する場合があります。この授業に関するすべての連絡は学習支援システムで行います。講義はオンライン（ZOOM）で実施します。

a) Lecturers may change depending on their schedule.

b) All communication regarding this class will be done through the learning support system.

c) This course will be held through ZOOM online.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	金融経済教育の重要性・人生とお金	①金融教育の重要性②人生とお金
2	お金を稼ぐ	①お金を稼ぐとは②仕事を考える③海外で働く
3	生活に関わる税金	①税金と財政②支出に関わる税金③収入に関わる税金④その他の税金
4	ライフプランを描く①	①ライフプランの重要性②所得と収入③人生の3大費用④ライフイベントを描く
5	ライフプランを描く②	①キャッシュフロー表の作成③キャッシュフロー表の分析

6	お金を借りる①(クレジットカード)	①お金を借りる②キャッシュ決済③クレジットカードについて④トラブル事例
7	お金を借りる②(ローン、リース)	①ローンについて②住宅ローン③その他のローンなど④多重債務
8	お金と経済	①お金と経済の関係②景気について③物価・金利と外国為替
9	お金をふやす①(投資)	①お金を増やす方法②貯蓄について③それぞれの金融商品④その他の投資
10	お金をふやす②(NISAとiDeCo)	①投資について②投資のリスクコントロール③NISAとiDeCo
11	リスクに備える①(損害保険)	①保険について②損害保険③運転者の保険④家の保険⑤海外旅行保険
12	リスクに備える②(生命保険)	①社会保障と生命保険②死亡に備える③病気やケガに備える④老後に備える⑤その他の備え⑥保険契約の留意点
13	トラブルに強くなる	①消費者トラブル事例②消費者を守る制度③トラブルに遭わないために
14	ライフプランを描く③	①ライフプランの復習②ライフプランの作成③最後に伝えたいこと

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各授業の準備学習及び復習は、それぞれ2時間程度を必要とする内容を設定しています。配布資料およびweb上の参考資料を必要に応じて読んでください。

a) The preparation and review of each class are expected to spend 2 hour each.

b) Text and handouts will be available on Hoppii.

**【テキスト（教科書）】**

なし

Nil

**【参考書】**

各回の講義資料については学習支援システムに事前に掲載予定です。Presentations for each class will be posted in advance on the learning support system.

**【成績評価の方法と基準】**

受講後アンケートの提出（30%）、中間テスト1回（30%）および最終テスト（40%）の点数により成績を判定し、単位付与の可否を決定します。

・ Examination 70%

2 examinations will be conducted online on the learning support system Hoppii.

a) Midterm exam 30%

b) Final exam 40%

・ Subbit a post-course questionnaire 30%

**【学生の意見等からの気づき】**

将来だけでなく現時点での生活にも役立つことが学べたといった意見を多くいただきました。2025年度も皆さんの生活に密着した事例等を取り入れ、人生におけるリスクに対する心構え等も含め役立つ情報をお伝えします。

We received many comments that they were able to learn things that would be useful not only in the future, but also in their current lives.

In 2025, we will continue to incorporate case studies that are closely related to your daily lives and provide useful information, including how to prepare for risks in life.

**【学生が準備すべき機器他】**

オンライン授業のため、PCを用意してください。

Please prepare a PC for online classes.

**【その他の重要事項】**

毎回、学習支援システムより受講後アンケートの提出を求めます。アンケートを集計し、講義内容の理解度、定着度の確認を行います。講義内容に関する質問があれば、次回講義時にまとめて回答を実施します。

After each class, you will be asked to submit a questionnaire through the learning support system. We will compile the questionnaires and check the level of understanding and retention of the lecture content. If you have any questions regarding the lecture content, we will answer them all at the next lecture.

**【Outline (in English)】**

In present-day, having “Financial Literacy”, the knowledge and skills needed to make important financial decisions, is important.

This course provides necessary knowledge and information to have Financial Literacy.

This course is provided by AEON Financial Service Co., Ltd. For free.

CMF200LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 200)

## 社会連携講座 (アドバンス)

高見 京太、佐野 竜平、深野 聡

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位  
 曜日・時限：水4/Wed.4 | キャンパス：多摩  
 備考（履修条件等）：

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本における競馬は、1861年に初めてレースが行われて以来、160年の歴史を有しています。現在では10万人規模の観客を集めるレースも開催され、その人気はテレビやインターネットコンテンツ、SNSを通じて広く知られています。競馬の中心となるのは競走馬ですが、その舞台裏には多様な分野の専門家が関わり、競馬を支えています。また、競馬は日本における重要な産業の一つであり、単に馬のレースという枠を超えて、人々の暮らしや地域社会に多くの影響を与えています。

本講義では競馬を題材に、スポーツビジネスの仕組み、持続可能な社会の在り方、そして人と馬のウェルビーイング（健康で幸せな暮らし）の可能性について学びます。

## 【到達目標】

競馬の歴史や国内外の競馬界、競走馬、競馬場について学び、スポーツとしての競馬を他者に説明できる。

競馬ビジネスの戦略を理解し、ビジネスとして成立する要因やその運営を支えるメカニズムを関連づけて説明できる。

競走馬のセカンドキャリアについて学び、人馬のウェルビーイングに貢献する引退競走馬の活用について具体的に述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-IV」「法政DP-VII」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

[https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui\\_juyo/](https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/)

## 【授業の進め方と方法】

・競馬に関わる専門的な事項については、JRAの各領域の専門家が講義を行います。

・復習テストまたはショートレポートを通じて、各回の学びを整理し、最終的には総まとめのレポート課題を提出します。

・開講時限は、水曜日4時限目の3キャンパスの授業時間が重なる15:30から16:40の70分間です。そのため、市ヶ谷キャンパスの4時限目開始時刻の30分後に始まり、多摩キャンパスの4時限目終了時刻の30分前に終わります。

・講師が教室で講義を行うのは、原則として市ヶ谷で7回、多摩で7回（合計14回）です。受講する学生は、14回全てをそれぞれのキャンパスで受講し、7回は対面で、7回は教室のスクリーンに映し出されるもう一方のキャンパスの授業を受講します。

・フィールドワークは、JRA東京競馬場（府中市）とJRA馬事公苑（世田谷区）を会場として、現地集合、現地解散で行います。

→フィールドワークⅠ

実施日：11月上旬の土曜日

場所：東京競馬場

テーマ：競馬関連施設および観客の前で行われる競馬のレースを見学し、それまでの学びを確認する。また、その後の学習内容をより深く理解するための知識を身につける。

→フィールドワークⅡ

実施日：12月上旬の日曜日

場所：JRA世田谷区馬事公苑

テーマ：引退競走馬のセカンドキャリアの1つとして、内国産乗用馬および引退競走馬限定の馬術競技大会を観戦して、引退競走馬が競技馬として新たな役割を担う様子や、人馬のウェルビーイングを支える取り組みについて理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	学習内容の理解	本授業の全体像を把握し、学びの目的を明確にする。また、授業を通じて達成すべき到達目標を確認し、学習の方向性を定める。さらに、競馬がもたらす人馬のウェルビーイングをスポーツビジネスの観点から捉え、課題解決型学習（PBL）としての取り組み方を理解する。併せて、授業全体の進行計画や評価方法について確認し、主体的な学びを深めるための準備を行う。
2	競馬の概要	競馬とは何か、その歴史や社会的な役割を含めて理解を深める。また、日本における競馬の運営主体である日本中央競馬会（JRA）の業務内容やその役割について学ぶ。さらに、公営競技としての競馬の仕組みや特徴、競馬産業が持つ経済的・文化的な意義についても考察し、競馬が社会に与える影響を多角的に捉える。
3	競馬法とその改正の歴史	競馬の実施において最も重要な法律である「競馬法」の成立背景と改正の歴史を学び、競馬の制度や運営にどのような影響を与えてきたのかを理解する。加えて、競馬法に定められている具体的な内容を確認し、現代の競馬体系と法制度がどのように関連しているのかを考察する。さらに、競馬における勝馬投票券（馬券）の仕組みについて学び、払い戻し率や投票方式の種類、収益構造などについて理解を深める。
4	ギャンブル等依存症対策	競馬が公営競技としてギャンブル性を持つことを認識し、その社会的な影響について理解を深める。特に、競馬に関連するギャンブル等依存症の実態を学び、そのリスクや問題点について考察する。また、日本中央競馬会（JRA）が実施する依存症対策の具体的な取り組みを学び、ギャンブル等依存症の予防・対策の重要性や、公営競技としての社会的責任について理解を深める。さらに、国内外における依存症対策の事例も参考にしながら、競馬が健全に楽しめる環境をどのように整備すべきかを考える。

5	競馬の舞台装置	競馬が行われる競馬場の構造や機能について理解を深める。特に、競走馬が走る馬場（芝コース・ダートコース）の特徴や管理方法を学び、競馬の公正な実施に不可欠な環境整備について考察する。また、競馬場内に設けられた職員が執務するエリアや競走の運営に関わる施設、さらに観客が利用するスタンドや指定席エリア、パドックなどについても学ぶ。競馬場全体の役割と機能を総合的に理解し、フィールドワークに向けた準備を進める。	9	馬事振興への取組み	日本中央競馬会（JRA）が馬事振興に取り組む意義や目的を理解し、競馬産業だけでなく、馬との共生を促進するための活動について学ぶ。特に、競走馬の生産・育成支援、引退競走馬のセカンドキャリア支援、乗馬振興、馬文化の継承と普及といった具体的な施策を確認する。また、全国の乗馬クラブや教育機関との連携、馬を活用した地域振興や観光振興への貢献についても考察する。これらの取り組みを通じて、馬事振興が持つ社会的意義や、JRAが果たす役割について総合的に理解を深める。
6	競馬のプロモーション戦略	日本中央競馬会（JRA）が実施する各種プロモーション施策の目的や狙いを理解し、競馬の魅力を広く発信するための戦略について学ぶ。特に、競馬ファンの獲得や競馬文化の発展を目的としたメディア戦略、広告展開、SNS活用の手法を分析する。また、競馬場でのイベントやファンサービス、地域との連携企画などのイベント戦略にも着目し、それらが競馬のブランド価値向上や新規ファン層の開拓にどのように寄与しているのかを考察する。これらのプロモーション活動を通じて、スポーツビジネスとしての競馬のマーケティング手法を総合的に理解する。	10	世界の競馬	競馬が世界各国で広く行われていることを踏まえ、その歴史や発展の経緯を学び、国ごとの競馬文化の違いを理解する。特に、欧米やアジア、オセアニアなど主要競馬国における競馬の種類（平地競走・障害競走・繋駕競走など）や特徴、競馬産業の仕組みを比較し、日本競馬との違いを考察する。また、日本の競馬が国際的にどのような立ち位置にあるのか、競走馬の輸出入、国際競走への参戦実績、競馬技術の発展などを通じて検証する。さらに、世界の競馬が持つスポーツビジネスとしての側面や、今後の国際交流の可能性についても探る。
7	映像コンテンツとしての競馬	日本中央競馬会（JRA）の歩みとともに、競馬映像の歴史を振り返り、その発展と技術革新について学ぶ。競馬映像が持つ役割として、レースの公正性を担保する記録映像、ファンに向けたエンターテインメント要素、競馬文化の継承や新規ファン獲得を目的としたプロモーション映像など、多様な側面を理解する。また、インターネット配信の普及や映像技術の進化による競馬映像の変化に注目し、映像コンテンツの課題や今後の展望について考察する。競馬の魅力を映像を通じてどのように伝えるべきかについて、スポーツビジネスの観点から深く検討する。	11	競馬の生産現場	競走馬の生産拠点として知られる北海道新冠町における軽種馬産業について学び、生産牧場や種馬場の役割と機能を理解する。特に、競走馬の生産・育成のプロセスを学びながら、優れた競走馬を育成するための環境や技術について考察する。また、新冠町における軽種馬産業と地域社会との関係性に注目し、馬産業が地域経済や文化に与える影響についても分析する。
8	インターネットを活用した販売戦略	日本中央競馬会（JRA）がこれまで展開してきた勝馬投票券（馬券）の発売の歴史を振り返り、販売手法の変遷を理解する。特に、場外発売所や電話投票の導入から、現在主流となっているインターネットを活用した販売戦略への発展について学ぶ。さらに、JRAが提供するオンライン投票サービスの仕組みや、ユーザーの利便性向上を目的としたデジタルマーケティング戦略について分析する。加えて、他の公営競技と比較しながら、インターネット販売が競馬産業の収益構造やファン層の拡大にどのような影響を与えているのかを考察し、今後の可能性についても検討する。	12	馬のウェルビーイング	馬の健康と福祉を評価するための多面的なアプローチについて学び、馬の身体的・精神的な健康を維持するための要素を理解する。具体的には、適切な飼養管理、栄養管理、運動環境、獣医療の役割に加え、ストレス軽減や行動学的観点からのウェルビーイング評価方法について考察する。また、競走馬や乗用馬におけるウェルビーイングの確保が競馬産業全体に与える影響についても検討し、馬と人の持続可能な関係を築くための取り組みについて理解を深める。

- 13 引退競走馬を軸とした循環型社会と農福連携
- 引退競走馬の活用を軸とした循環型社会の構築と、農業・福祉との連携（農福連携）について学ぶ。具体的には、引退後の競走馬がホースセラピーや乗馬、農業支援など多様な分野で活躍する事例を通じて、人馬のウェルビーイングを実現するための実践的な取り組みを理解する。また、農業分野における馬の活用や、障がい者や高齢者の就労支援との連携について考察し、持続可能な社会づくりにおける馬の役割を探究する。さらに、これらの取り組みを競馬産業や地域振興にどのように応用できるかについても検討し、社会的な意義と今後の展望を考える。
- 14 引退競走馬のセカンドキャリア(リトレーニング)
- 競馬を引退した競走馬が、新たな役割を担うための「リトレーニング（再調教）」という手法について学ぶ。競走馬としてのトレーニングとは異なるアプローチで、新たな環境に適応し、乗馬やホースセラピー、スポーツ競技、教育プログラムなどで活躍できるようになる過程を理解する。特に、大学における人馬のウェルビーイングの実践として、リトレーニングをどのように取り入れ、教育や研究に活用しているのかを考察する。また、引退競走馬のセカンドキャリアを社会全体で支えるための仕組みや課題についても検討し、持続可能な人馬の関係構築に向けた展望を探究する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

#### 【参考書】

人馬のウェルビーイング. 高見京太、佐野竜平編著, クリエイツかもがわ, 2025.

<https://www.creates-k.co.jp/genre/shakai/10196/>

#### 【成績評価の方法と基準】

各回の復習テスト：84%（6点×14回）

フィールドワークのショートレポート：8%（4点×2回）

最終レポート：8%

#### 【学生の意見等からの気づき】

配信を受ける側の教室の受講者より、講師の声が聞き取りにくいことがあった、との指摘を受けたので、講師にマイクの使用方法について注意を促す。

#### 【その他の重要事項】

本授業の講義は、市ヶ谷キャンパスと多摩キャンパスの教室で実施します。

受講するキャンパスにより授業コードが異なるため、履修登録時に注意してください。

・市ヶ谷キャンパス授業コード：A9861

・多摩キャンパス授業コード：A9862

※選択したキャンパスで全ての回を受講していただくことになります。

※市ヶ谷を選択した場合、水曜3・5限に多摩または小金井の授業を履修登録できず、多摩を選択した場合、水曜3・5限に市ヶ谷または小金井の授業を履修登録することができませんので、注意してください。

当科目は、フィールドワークが土曜日と日曜日に設定されます。秋学期が始まるまでには、学習支援システムによって具体的な日時を知らせます。

#### 【Outline (in English)】

##### Course outline

In this lecture, you will learn that horse racing is involved in the sports business, sustainable society, and Horses and Humans Well-being.

##### Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Learn about the history of horse racing, the domestic and international horse racing world, racehorses, and racecourses, and understand horse racing as a sport.
- B. Understand the strategy of the horse racing business and gain systematic knowledge about the factors that establish the business and the mechanisms that support its operation.
- C. Learn about the second career of retired racehorses and understand the efforts of Horses and Humans Well-being.

##### Grading Criteria /Policy

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Review test: 84%(6 points x 14 times)

Fieldwork report: 8%(4 points x 2 times)

Final report: 8%(8 points x 1 time)

CMF200LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 200)

## 社会連携PBL (アドバンス)

高田 朝子、菅谷 正美

開講時期：オースタムセッション/Autumn Session | 単位数：2  
単位

曜日・時限：集中・その他 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一つの地域に焦点をあて、地域が抱える課題に対して学生の視点から何らかのソリューションをつくりあげる講義と演習の組み合わせによる実践的な授業です。本年度は島根県松江市にてフィールドワークを行います。松江市は法政大学初代総理（現在の総長）の出身地です。

5月24日の市ヶ谷キャンパスでのキックオフからはじまり、8月4日から7日まで実施されるフィールドワークを経て、10月初旬（日程は調整中）の市役所への発表を経て授業は終了します。変則的な日程である事に注意してください。

受講生は以下の4つのプロセス全てに参加することが求められます。

- ①事前講義に参加すること
  - ②8月4～7日に行われる現地での演習授業に臨むこと、そのためのグループワークを行うこと
  - ③演習授業後のまとめの講義に参加すること、プレゼンテーションのためのグループワークに参加すること
  - ④自治体の首長もしくは相当の人びとの前で自分達のソリューションやアイデアに関するプレゼンテーションを行うこと
- 本授業の目標は、二つあります。第一に、日本の地方都市の持つ課題を理解すること。第二に与えられた課題に対して自分達なりの仮説をつくり、課題のソリューションもしくはそれに相当するアイデアを考え、それらを言語化、可視化し相手が分かるように説明する経験をする事、そしてその能力を身につけることです。
- 与えられた課題に対して、手をつくして資料を調べ、チームでアイデアを練り上げるためのディスカッションをし、その後現地に出向き実際にどうなっているのかを体験することで、現実の世界と頭の中で考えることの違いを実体験します。その上で、どのように課題解決の道筋をつくりあげるかを実践的に学びます。

## 【到達目標】

日本が直面している現状を理解すること。特に地方都市において人口減少がどのように進み、それがどのように人びとの生活に影響をおよぼしているのかを理解する事を求めます。その上で、与えられた課題に対して、自分達で考え、調べ、ディスカッションをし、そして現地で現実を体験し、試行錯誤を繰り返す中で自分達なりの課題解決の方法やアプローチのやり方を獲得することがゴールです。加えて、学外の人と関わるためのビジネスマナーを身につけること、プレゼンテーションのやり方を身につけることも副次的な目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-IV」「法政DP-VII」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

[https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui\\_juyo/](https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/)

## 【授業の進め方と方法】

本講は島根県松江市にてフィールドワークを行います。松江市は法政大学初代総理（現在の総長）の出身地です。市役所から提示される松江市が抱える課題をグループに分かれて調べ、課題解決のための仮説をつくり、討議し、現地に行きソリューションをブラッシュアップし、学生の視点から課題解決の提案を試みます。

本講は4つの部分からなります。

- 1) 市ヶ谷キャンパスで5月からはじまる事前講義 ならびに各グループで行う事前ワーク
- 2) 松江で8月4～7日で行われるフィールドワーク
- 3) 市ヶ谷キャンパスで行う事後講義ならびに各グループワーク

## 4) 市ヶ谷キャンパスで行う発表会

具体的な日程としては

- 1) 事前座学は5月24日土曜日 6月14日土曜日、7月12日土曜日の3、4限@市ヶ谷キャンパスで実施します。
- 2) 現地フィールドワークは8月4日から7日の4日間実施します。
- 3) 事後座学は9月20日土曜日3、4限@市ヶ谷キャンパスで実施します。
- 4) この他に各グループでのグループワークの時間が発生します。最初に座学を行います。座学において課題に対して、解決のための周辺情報をまず自分で調べます。そして、グループで調べディスカッションをし、課題解決のために活動し素案を作ります。その間に松江役所とのウェブでの打合せも行います。夏休みに現地実習を経て、自分達のアプローチの妥当性を検討し、より現実的な提案に近づけます。その後、事後座学として、発表前のリハーサルならびにプレゼンテーションのブラッシュアップを行います。希望するグループについてはプレゼンテーションのワークショップを実施します。最後に本学にて、松江市に対して、課題に対する自分達のソリューションについての発表を行います。

## 【履修について】

本授業の履修を希望する者は4月18日（金）17時までに学習支援システムで仮登録すること。

人数等を踏まえ、選抜を行う可能性があります。

選抜については、4月21日（月）～22日（火）頃を目安に学習支援システムを通じて連絡します。

## 【費用について】

本授業の受講者には、フィールドワークにおける宿泊料として15,000円を負担していただきます。

（本授業は法政大学後援会より助成を受けており、上記金額を超える分の宿泊料や航空券代は助成金で賄われます。）

その他、事前・事後学習のために市ヶ谷キャンパスに通う交通費や、フィールドワークに係る現地交通費、食費等は学生の自己負担となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	5 対象地域の紹介と授業のやり方	必ず出席のこと。対象地域の紹介と課題について説明を行う。
キックオフ		その後グループ編成を行う。
第2回	5 地域の実地、私達の国のおかれている状態、どのように調べるか	地域を取り巻く環境を知る。課題解決のアプローチ方法について学習する。
第3回	6 課題解決のアプローチと作法①	どのように課題を解決するか。ビジネスマナーについて学ぶ①
第4回	6 課題解決のアプローチと作法②	どのように課題を解決するか。ビジネスマナーについて学ぶ②
第5回	7 事前調査	現地調査に必要な講義ならびにグループワーク
第6回	7 事前調査	進捗報告
第7回	8 現地演習①	現地調査に必要な講義ならびにグループワーク
第8回	8 現地演習②	進捗報告
第9回	8 現地演習③	現地にてグループ毎にフィールドリサーチを行う
第10回	8 現地演習④	現地にてグループ毎にフィールドリサーチを行う
		現地にてグループ毎にフィールドリサーチを行う

第11回 8月6日	現地演習⑤	現地にてグループ毎にフィールドリサーチを行う
第12回 8月7日	現地演習⑥	現地にてグループ毎にフィールドリサーチを行う
第13回 9月20日	リハーサルとプレゼンテーションブラッシュアップ	最終報告に向けてプレゼンテーションのブラッシュアップ
第14回	発表（日程は後日示す）	市役所に対してソリューションの発表を行う各自の報告レポートならびに、グループ発表の際のパワーポイントの提出

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

多くのグループワークが発生する。授業外で課題へのソリューションについてのディスカッション、リサーチをする必要があります。グループワークのやり方については、参加者に任せますが、ウェブを有効活用して下さい。

最低でも、大体演習前10時間程度、演習後10時間程度のグループワークが必要となると考えられています。各自時間を確保して下さい。この他に、希望者にはプレゼンテーションの資料作成などのワークショップの機会も作ります。各グループには中小企業診断士の補助員がつかます。

#### 【テキスト（教科書）】

授業で適宜示す

#### 【参考書】

適宜示す

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 40%

座学でのレポート 20%

課題へのソリューション並びにプレゼンテーション（S&P） 40%  
注意

座学でのレポートは個人で提出

課題へのソリューションとプレゼンテーションは、グループで提出します。ただし、フリーライダーを防ぐために、プレゼンテーション後にグループメンバーでお互いの貢献度の評価を行います。この評価表は教員に直接提出されます。

その結果は平常点ならびに、S & Pの素点に加味されるので注意されたい。

#### 【学生の意見等からの気づき】

自治体からの課題の設定を早めに提示するようにしました。

#### 【Outline (in English)】

Focusing on a single region, this is a practical class that combines lectures and exercises to create solutions to regional issues from the students' perspectives. This year, fieldwork will be conducted in Matsue City, Shimane Prefecture. Matsue City is the birthplace of Hosei University's first prime minister (current president).

The course will begin with a kick-off event at the Ichigaya Campus on May 24th, and will continue with fieldwork from August 4th to 7th, concluding with a presentation at the city hall in early October (date to be confirmed). Please note that the schedule is irregular.

Students are required to participate in all four processes below.

- 1) Participate in the preliminary lectures
- 2) Attend the on-site training course to be held from August 4th to 7th, and carry out group work for this purpose
- 3) Participate in the summary lecture after the training course, and participate in group work for the presentation
- 4) Make a presentation on their solutions and ideas in front of the leaders of the local government or their equivalents

By researching the given issues, discussing ideas as a team, and then going out into the field to experience what is actually happening, you will experience the difference between thinking in your head and thinking in the real world. You will then learn how to practically create a path to solving issues.

#### Learning outside of class time

Students will be required to discuss and research solutions to issues outside of class. I will leave it up to the participants to decide how to conduct group work, but please make good use of the web.

It is expected that at least 10 hours of group work will be required before and 10 hours after the exercise.

You will be required to do a lot of group work outside of class time.

#### Learning Objectives

There are two learning objectives for this class. The first is to understand the issues faced by local cities in Japan. The second is to create your own hypotheses for the given issues, think of solutions or ideas that correspond to the issues, and experience and acquire the ability to verbalize and visualize these ideas so that they can be understood by others.

#### Grading

Classwork: 40%

Classroom report: 20%

Solutions and presentations (S&P) for the issues: 40

#### Notes

Reports for the classroom lectures are submitted individually. Solutions to the assignments and presentations are submitted as a group. However, in order to prevent free-riders, after the presentation, the group members evaluate each other's contribution. This evaluation form is submitted directly to the teacher.

Please note that the results will be added to the regular points and the S&P raw score.



CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

## 社会連携講座 (ベーシック)

佐野 哲

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金2/Fri.2 | キャンパス：市ヶ谷

備考(履修条件等)：本講義と2024年度開講の「社会連携講座 (ベーシック)」(校友会連携プログラム「企業における仕事と成長」)は同一の内容であるため、2024年度に履修した学生は本講義を履修できません。一方、本講義と秋学期開講の「社会連携講座 (ベーシック)」(企業における仕事と成長Ⅱ)は異なる内容であるため、2024年度に履修した学生も履修可能です。

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

法政大学校友会(本学を卒業したOBOGを中心に構成される組織)及び法政財界人倶楽部(本学卒業の上場企業取締役経験者を中心に構成される組織)との連携のもと開講される、オムニバス形式の講義です。豊かなビジネス経験を持って高い地位を築き、仕事と母校への情熱を有する校友会・倶楽部メンバー(卒業生)が集まって講師陣となり、そのキャリアの中で体得した「実践知」の内容やノウハウについて、様々な事例や出来事を示しながら自らの言葉で解りやすく解説します。これは卒業生が現役学生にエールを送る場であり、履修者が卒業生の経験を共有、理解することを通して、自らの今後のキャリア形成について独自かつ具体的に考える機会となります。「企業における仕事と成長Ⅰ」では、将来のキャリア形成を考えるうえで役立つ「実践知」について、豊かなビジネス経験を持つゲストスピーカー(プラス株式会社・現副社長、ミサワホーム株式会社・元会長、住宅金融支援機構・元副理事長、文化シャッター株式会社・会長)をお招きし、オムニバス講義形式で学びます。

## 【到達目標】

就職活動や卒業を控えた学生は、自分が卒業後のビジネス社会で「どう働き、どう成長していくのか」具体的なイメージが掴みきれず、漠然とした不安を感じているのではないか。また、学生らが現在思いを巡らす将来像、将来計画そしてそのための取り組みや努力の正しさについて、日々悩んでいるのではないか。この社会連携講座は、そうした在学生の不安感に、それを乗り越え実績を積み重ねた卒業生らが自らの言葉で応えようとするものです。その意味で、この講義の目標は「学生と卒業生の対話」であり、履修者の到達目標としては「ビジネス界の先輩(講師となる卒業生)が有する企業での経験を共有し、自らの意見を述べ、コミュニケーションを深めていく能力(コミュニケーション能力)の向上」となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-IV」「法政DP-VI」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

[https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui\\_juyo/](https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/)

## 【授業の進め方と方法】

複数(4名)の卒業生講師によるオムニバス形式のリレー講義です。それぞれの講師が3週分の授業を受け持ち、①自分自身のキャリアの振り返り(第1週)、②自らが勤務した企業の紹介及び業界研究(第2週)、③「社内文書」を通して学ぶ「実践知」：論理構成・ビジネス数学・統計ノウハウ(第3週)の三つのセッションを進めて行きます。なお、全体を通して、本学校友会に関わる経営学部の教員がMCを務めます。以下、授業計画にある「ビジネス」(業界)は、担当予定者の事業スケジュールの都合により変更になる場合があります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
オリエンテーション	セッションの概要と担当講師(卒業生)の紹介、それぞれの業界に関する解説	MCを務める教員(経営学部教授)が、リレー講義全体の流れ及び、講義理解を深める上で必要な基礎的知識について解説します。
講義①その1	住宅メーカー・不動産ビジネスと企業での仕事とキャリア	大手企業の元社長(卒業生)による講義です。
講義①その2	住宅メーカー・不動産ビジネスの市場構造、企業研究	上記企業の関係者をお招きして行う講義です。
講義①その3	住宅メーカー・不動産ビジネスで働くこと、その中にある「実践知」	「社内文書」の実例を題材に、作成ノウハウやビジネス統計について講義します。
講義②その1	コンビニエンスストア・流通ビジネスと企業での仕事とキャリア	大手企業の元社長(卒業生)による講義です。
講義②その2	コンビニエンスストア・流通ビジネスの市場構造、企業研究	上記企業の関係者をお招きして行う講義です。
講義②その3	コンビニエンスストア・流通ビジネスで働くこと、その中にある「実践知」	「社内文書」の実例を題材に、作成ノウハウやビジネス統計について講義します。
講義③その1	政策金融機関と独立行政法人での仕事とキャリア	政府機関の元副理事長(卒業生)による講義です。
講義③その2	政策金融の制度と市場構造、機関研究	上記機関の関係者をお招きして行う講義です。
講義③その3	政策金融機関で働くこと、その中にある「実践知」	「社内文書」の実例を題材に、作成ノウハウやビジネス統計について講義します。
講義④その1	総合オフィス用品メーカー・ネットビジネスと企業での仕事とキャリア	大手企業の副社長(卒業生)による講義です。
講義④その2	総合オフィス用品メーカー・ネットビジネスの市場構造、企業研究	上記企業の関係者をお招きして行う講義です。
講義④その3	総合オフィス用品メーカー・ネットビジネスで働くこと、その中にある「実践知」	「社内文書」の実例を題材に、作成ノウハウやビジネス統計について講義します。
授業内試験	論述試験の実施	期末試験の実施に合わせて、講義内容の振り返りを行います。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各講師の企業について、ホームページや有価証券報告書等を読み込んでおくことを求めます。授業の準備・復習時間は各2時間を基本とします。

## 【テキスト(教科書)】

テキストは使用しません。

## 【参考書】

参考書は使用しません。

## 【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験(70%)、各講義①～④の「その3」への貢献度(30%)で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

新規設置講義のため、特にありません。

## 【その他の重要事項】

本講義と2024年度開講の「社会連携講座(ベーシック)」(校友会連携プログラム「企業における仕事と成長」)は同一の内容であるため、2024年度に履修した学生は本講義を履修できません。

一方、本講義と秋学期開講の「社会連携講座（ベーシック）」（企業における仕事と成長Ⅱ）は異なる内容であるため、2024年度に履修した学生も履修可能です。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

This Alumni Speaker Series brings alumni back to campus to share their “practical wisdom” on a variety of topics, such as business literacy, prioritizing multiple passions and finding unique ways to develop career. The series aims to encourage students to envisage their own career as they listen to career talks by the lecturers.

**【Learning Objectives】**

By the end of the series, students can develop the career image and evaluate what they understand the direction of their self-study. Through this series, students expand their scope of career target.

**【Learning activities outside of classroom】**

Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the series content.

**【Grading Criteria/Policies】**

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination (70%) and in-class contribution(30%)

CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

## 社会連携講座 (ベーシック)

佐野 哲

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位  
 曜日・時限：金2/Fri.2 | キャンパス：市ヶ谷  
 備考（履修条件等）：本講義は2024年度開講の「社会連携講座（ベーシック）」（校友会連携プログラム「企業における仕事と成長」）と異なる内容であるため、2024年度に履修した学生も本講義を履修可能です。

その他属性：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法政大学校友会（本学を卒業したOBOGを中心に構成される組織）及び法政財界人倶楽部（本学卒業の上場企業取締役経験者を中心に構成される組織）との連携のもと開講される、オムニバス形式の講義です。豊かなビジネス経験を持って高い地位を築き、仕事と母校への情熱を有する校友会・倶楽部メンバー（卒業生）が集まって講師陣となり、そのキャリアの中で体得した「実践知」の内容やノウハウについて、様々な事例や出来事を示しながら自らの言葉で解りやすく解説します。これは卒業生が現役学生にエールを送る場であり、履修者が卒業生の経験を共有、理解することを通して、自らの今後のキャリア形成について独自かつ具体的に考える機会となります。「企業における仕事と成長Ⅱ」では、将来のキャリア形成を考えるうえで役立つ「実践知」について、豊かなビジネス経験を持つゲストスピーカー（株式会社オリエンタルランド・現社長、関電工・元会長、ライト工業株式会社・元社長、もう一社は交渉中）をお招きし、オムニバス講義形式で学びます。

## 【到達目標】

就職活動や卒業を控えた学生は、自分が卒業後のビジネス社会で「どう働き、どう成長していくのか」具体的なイメージが掴みきれず、漠然とした不安を感じているのではないかと、学生らが現在思いを巡らす将来像、将来計画そしてそのための取り組みや努力の正しさについて、日々悩んでいるのではないかと。この社会連携講座は、そうした在学生の不安感に、それを乗り越え実績を積み重ねた卒業生らが自らの言葉で応えようとするものです。その意味で、この講義の目標は「学生と卒業生の対話」であり、履修者の到達目標としては「ビジネス界の先輩（講師となる卒業生）が有する企業での経験を共有し、自らの意見を述べ、コミュニケーションを深めていく能力（コミュニケーション能力）の向上」となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-IV」「法政DP-VI」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

[https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui\\_juyo/](https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/)

## 【授業の進め方と方法】

複数（4名）の卒業生講師によるオムニバス形式のリレー講義です。それぞれの講師が3週分の授業を受け持ち、①自分自身のキャリアの振り返り（第1週）、②自らが勤務した企業の紹介及び業界研究（第2週）、③「社内文書」を通して学ぶ「実践知」：論理構成・ビジネス数学・統計ノウハウ（第3週）の三つのセッションを進めて行きます。なお、全体を通して、本学校校友会に関わる経営学部の教員がMCを務めます。以下、授業計画にある「ビジネス」（業界）は、担当予定者の事業スケジュールの都合により変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
リフレクション	セッションの概要と担当講師（卒業生）の紹介、それぞれの業界に関する解説	MCを務める教員（経営学部教授）が、リレー講義全体の流れについて解説するとともに、春学期の振り返りを行います。
講義①その1	テーマパーク・不動産ビジネスと企業での仕事とキャリア	大手企業の元社長（卒業生）による講義です。
講義①その2	テーマパーク・不動産ビジネスの市場構造、企業研究	上記企業の関係者をお招きして行う講義です。
講義①その3	テーマパーク・不動産ビジネスで働くこと、その中にある「実践知」	「社内文書」の実例を題材に、作成ノウハウやビジネス統計について講義します。
講義②その1	インフラ・設備工事ビジネスと企業での仕事とキャリア	大手企業の元社長（卒業生）による講義です。
講義②その2	インフラ・設備工事ビジネスの市場構造、企業研究	上記企業の関係者をお招きして行う講義です。
講義②その3	インフラ・設備工事ビジネスで働くこと、その中にある「実践知」	「社内文書」の実例を題材に、作成ノウハウやビジネス統計について講義します。
講義③その1	総合建材メーカー・空間ビジネスと企業での仕事とキャリア	政府機関の元副理事長（卒業生）による講義です。
講義③その2	総合建材メーカー・空間ビジネスの市場構造、機関研究	上記機関の関係者をお招きして行う講義です。
講義③その3	総合建材メーカー・空間ビジネスで働くこと、その中にある「実践知」	「社内文書」の実例を題材に、作成ノウハウやビジネス統計について講義します。
講義④その1	インフラ・建設土木工事ビジネスと企業での仕事とキャリア	大手企業の副社長（卒業生）による講義です。
講義④その2	インフラ・建設土木工事ビジネスの市場構造、企業研究	上記企業の関係者をお招きして行う講義です。
講義④その3	インフラ・建設土木工事ビジネスで働くこと、その中にある「実践知」	「社内文書」の実例を題材に、作成ノウハウやビジネス統計について講義します。
授業内試験	論述試験の実施	期末試験の実施に合わせて、講義内容の振り返りを行います。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講師の企業について、ホームページや有価証券報告書等を読み込んでおくことを求めます。授業の準備・復習時間は各2時間を基本とします。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

## 【参考書】

参考書は使用しません。

## 【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（70%）、各講義①～④の「その3」への貢献度（30%）で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

新規設置講義のため、特にありません。

## 【その他の重要事項】

本講義は2024年度開講の「社会連携講座（ベーシック）」（校友会連携プログラム「企業における仕事と成長」）と異なる内容であるため、2024年度に履修した学生も本講義を履修可能です。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This Alumni Speaker Series brings alumni back to campus to share their “practical wisdom” on a variety of topics, such as business literacy, prioritizing multiple passions and finding unique ways to develop career. The series aims to encourage students to envisage their own career as they listen to career talks by the lecturers.

**【Learning Objectives】**

By the end of the series, students can develop the career image and evaluate what they understand the direction of their self-study. Through this series, students expand their scope of career target.

**【Learning activities outside of classroom】**

Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the series content.

**【Grading Criteria/Policies】**

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination (70%) and in-class contribution(30%)

CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

## 社会連携講座 (ベーシック)

コーディネータ：高田 朝子、講師 (ゲストスピーカー)  
：イオンフィナンシャルサービス株式会社

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金3/Fri.3 | キャンパス：市ヶ谷

備考 (履修条件等)：

その他属性：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代社会では、金融との関わりを持つことは避けられないため、生活スキルとして「金融リテラシー力 (お金に関する知識と判断力)」を身につけることは重要です。金融リテラシーについて体系的に学び、人生と生活を考えるうえで重要な事項を理解し、自分で必要な情報を集め、比較・検討して判断することが出来るようになる実践的な力を身につけて頂くことが本講義の目標です。本講義はイオンフィナンシャルサービス株式会社の寄付講義です。

〈注意〉2025年度春学期にオンラインで開講する【授業コード：A9860 科目名：社会連携講座 (ベーシック) サブタイトル：生活に関わるお金の知識講座】は本講義と同一の内容です。開講時限・授業形態を確認して選択してください。

## 【到達目標】

経済的に自立し、より良い生活を送るために必要な、経済や金融についての知識と判断力を学ぶ。学んだ知識を活かし、適切な金融商品のサービス選択ができ、将来の生活設計 (ライフプラン) が作成できるようになる。

The goals of this course are as follows:

- ・ To understand the financial services related to your own life for making proper decisions.
- ・ To gain the knowledge for making your own life planning including monetary planning.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-IV」「法政DP-VI」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

[https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui\\_juyo/](https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/)

## 【授業の進め方と方法】

講師が交代する場合があります。毎回、学習支援システム Hoppii より受講後アンケートを提出していただきます。

- Lecturers may change depending on their schedule.
- After each class, you need to submit a questionnaire through the learning support system Hoppii.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	金融経済教育の重要性・人生とお金	①金融教育の重要性②人生とお金
2	お金を稼ぐ	①お金を稼ぐとは②仕事を考える③海外で働く
3	生活に関わる税金	①税金と財政②支出に関わる税金③収入に関わる税金④その他の税金
4	ライフプランを描く①	①ライフプランの重要性②所得と収入③人生の3大費用④ライフイベントを描く
5	ライフプランを描く②	①キャッシュフロー表の作成③キャッシュフロー表の分析
6	お金を借りる①(クレジットカード)	①お金を借りる②キャッシュ決済③クレジットカードについて④トラブル事例

7	お金を借りる②(ローン、リース)	①ローンについて②住宅ローン③その他のローンなど④多重債務
8	お金と経済	①お金と経済の関係②景気について③物価・金利と外国為替
9	お金をふやす①(投資)	①お金を増やす方法②貯蓄について③それぞれの金融商品④その他の投資
10	お金をふやす②(NISAとiDeCo)	①投資について②投資のリスクコントロール③NISAとiDeCo
11	リスクに備える①(損害保険)	①保険について②損害保険③運転者の保険④家の保険⑤海外旅行保険
12	リスクに備える②(生命保険)	①社会保障と生命保険 ②死亡に備える③病気やケガに備える④老後に備える⑤その他の備え⑥保険契約の留意点
13	トラブルに強くなる	①消費者トラブル事例②消費者を守る制度③トラブルに遭わないために
14	ライフプランを描く③	①ライフプランの復習②ライフプランの作成③最後に伝えたいこと

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各授業の準備学習及び復習は、それぞれ2時間程度を必要とする内容を設定しています。配布資料およびweb上の参考資料を必要に応じて読んでください。

- The preparation and review of each class are expected to spend 2 hour each.
- Text and handouts will be available on Hoppii.

## 【テキスト (教科書)】

なし

Nil

## 【参考書】

各回の講義資料については学習支援システム Hoppii に事前に掲載予定です。

Presentations for each class will be posted in advance on the learning support system Hoppii.

## 【成績評価の方法と基準】

受講後アンケートの提出 (30%)、中間テスト1回 (30%) および最終テスト (40%) の点数により成績を判定し、単位付与の可否を決定します。

- ・ Examination 70%
- 2 examinations will be conducted online on the learning support system Hoppii.
- a) Midterm exam 30%
- b) Final exam 40%
- ・ Subbit a post-course questionnaire 30%

## 【学生の意見等からの気づき】

将来だけでなく現時点での生活にも役立つことが学べたといった意見を多くいただきました。2025年度も皆さんの生活に密着した事例等を取り入れ、人生におけるリスクに対する心構え等も含め役立つ情報をお伝えします。

We received many comments that they were able to learn things that would be useful not only in the future, but also in their current lives.

In 2025, we will continue to incorporate case studies that are closely related to your daily lives and provide useful information, including how to prepare for risks in life.

## 【学生が準備すべき機器他】

授業の中でエクセルファイルを使って作業して頂くことがあるので、PCを用意してください。

Please bring a PC for the class.

## 【その他の重要事項】

毎回、学習支援システム Hoppii より受講後アンケートの提出を求めます。アンケートを集計し、講義内容の理解度、定着度の確認を行います。講義内容に関する質問があれば、次回講義時にまとめて回答を実施します。

After each class, you will be asked to submit a questionnaire through the learning support system Hoppii. We will compile the questionnaires and check the level of understanding and retention of the lecture content. If you have any questions regarding the lecture content, we will answer them all at the next lecture.

**【Outline (in English)】**

In present-day, having “Financial Literacy”, the knowledge and skills needed to make important financial decisions, is important.

This course provides necessary knowledge and information to have Financial Literacy.

This course is provided by AEON Financial Service Co., Ltd. For free.

CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

**社会連携講座 (ベーシック)**

コーディネータ：武貞 稔彦、講師（ゲストスピーカー）  
：特定非営利活動法人 日本ファイナンシャル・プラン  
ナーズ協会

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位  
曜日・時限：火3/Tue.3 | キャンパス：市ヶ谷  
備考（履修条件等）：

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

人生には様々な場面でお金が必要となり、今後、結婚・育児・住宅取得・老後といった場面においては大きな支出が伴ってきます。本授業では、パーソナルファイナンスについて学習することで、人生における支出について個人が責任と計画性を持って行い、また貯蓄や運用、リスクマネジメントを意識的に行う必要があることを学びます。

本授業は、日本FP協会（日本FP協会：<https://www.jafp.or.jp/>）の寄付講座です。

**【到達目標】**

①知識・技能の観点：ファイナンシャル・プランニングの意義・役割に関する知識を身に付けている

②思考力・判断力・表現力等の能力の観点：自分自身の夢や目標を実現させるために必要なファイナンシャル・プランニングに関する思考力・判断力・表現力を身に付けることができる

③主体的な態度の観点：個人の生活や家計に視点をおきながら金融知識の向上を図ることができる

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-IV」「法政DP-VI」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

[https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui\\_juyo/](https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/)

**【授業の進め方と方法】**

・講義を中心としますが、授業内で個人ワークもしくはグループワーク、グループディスカッションを実施します。ワークやディスカッションの内容について、グループの代表者等に発表をお願いすることがあります。

・毎回、学習支援システムで小テストを実施します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり /Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし /No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ファイナンシャル・プランニングを学ぶ意味
2	ライフプランニング	収入と支出、様々な職業選択、給与明細の見方
3	社会保障制度①	社会保障の4つの柱、社会保険の5分野、年金制度
4	社会保障制度②	健康保険、雇用保険、介護保険
5	税制度の基礎知識①	日本の税制度、税の種類、所得税の基礎知識、住民税、源泉徴収票の見方
6	税制度の基礎知識②	税との付き合い方（アルバイトと税、iDeCo・NISAによる税額控除）
7	リスクと保険	個人を取り巻くリスク、民間保険商品（生命保険、損害保険等）の概要
8	ライフプランニングとファイナンシャル・プランニング	人生の3大資金（教育、住宅、老後）、各種ローン（住宅ローン、消費者ローン、奨学金等）

9	ライフプランニングの手法①	ライフプランとキャッシュフロー表
10	金融経済の基礎知識①	金融経済の仕組み、日本経済の動向と家計への影響（時事ニュース）、貯蓄、金利（単利と複利）
11	金融経済の基礎知識②	外貨預金、債券、株式、投資信託、リスクとリターン、長期分散積立投資（NISA,iDeCo含む）
12	不動産・相続の基礎知識	不動産の法律、登記、規制、税金、物件情報の見方、相続の考え方、遺言、相続税と贈与税
13	消費生活と契約	消費者保護の法律、契約締結とクーリングオフ制度、悪質商法
14	ライフプランニングの手法②、総括	キャッシュフロー表の見直し方、総括

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

・予習：教科書・参考書を用い、講義に先立ち該当する部分に目を通し、わからない用語等は事前に確認しておくこと。

・復習：授業内容を整理し、教科書・参考書を確認しながら理解を深めること。

**【テキスト（教科書）】**

『ファイナンシャル・プランニング入門－for Students－（第6版）』日本ファイナンシャル・プランナーズ協会, 2023

※講義内で無償配付します。

**【参考書】**

『学生生活マネー&キャリア』日本ファイナンシャル・プランナーズ協会, 2024

※講義内で無償配付します。

マ ネ ビ タ : <https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/e-learning/>

※本授業の予習復習に最適な内容ですので受講（無料）をお勧めします。

**【成績評価の方法と基準】**

小テストの結果を含めた毎回の授業の平常点（30％）に加え、試験（40％）及び授業期間中に課されるレポート（30％）によって行います。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

**【学生が準備すべき機器他】**

・教材の配付や小テスト及びレポートの提出は学習支援システムで行います。

・授業内で電卓を使用することがあります（スマートフォンで代替可）。

**【その他の重要事項】**

・ファイナンシャル・プランナー（CFP(R)認定者）としての実務経験が豊富な講師が、実務家の視点を取り入れた実用的な授業を実施します。

・質問は授業の前後に教室で受け付けます。

・本授業はFP技能検定の受検を目的、目標とするものではありませんが、ファイナンシャル・プランナー資格に興味のある方の受講も歓迎します。

**【Outline (in English)】****【授業の概要（Course outline）】**

Money is needed at various times in life and large expenditures in the future in such situations as marriage, child rearing, home acquisition, and retirement will be needed. By study of personal finance, students in this course will learn that individuals need to take responsibility and plan for their expenses in life, and that they need to be conscious about saving, investing, and risk management.

**【到達目標（Learning Objectives）】**

① Knowledge and skills : Students acquire knowledge of the significance and role of financial planning.

② Thinking, judgment, and expression skills : Students acquire the ability to think, make judgments, and express themselves in financial planning to realize their own dreams and goals.

③Independent attitude : Students can improve their financial knowledge along with taking into account their personal life and household finances.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Final grade will be calculated according to the following process

Mid-term report (30%), term-end examination (in class) (40%), and in-class contribution (30%) .



CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

## 社会連携講座 (ベーシック)

コーディネータ：武貞 稔彦、講師 (ゲストスピーカー)：  
株式会社オリエントコーポレーション

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位  
曜日・時限：土2/Sat.2 | キャンパス：市ヶ谷  
備考 (履修条件等)：

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

少子高齢化が進み、社会の効率化と生産性の向上が求められる我が国において、キャッシュレスの普及は社会全体の発展のために必要不可欠です。よって、①国内外のキャッシュレス環境、②社会課題解決におけるキャッシュレスの役割、③技術革新と未来のキャッシュレス決済を学び、創造的な解決策や新たなビジネスモデルを考える能力を身につけることは重要です。

### 【到達目標】

①キャッシュレス環境の理解と活用能力の向上：国内外のキャッシュレス環境について深く学び、実際の現場での利用方法やリスク等を理解することで、キャッシュレスの活用能力を向上させることをめざします。

②社会課題解決におけるキャッシュレスの役割：キャッシュレスの役割をより具体的に理解し、社会的課題解決にどのように関わることができるかを考えることで、社会への貢献意識を高めることをめざします。

③技術革新と未来のキャッシュレス決済：新たな技術革新や未来のキャッシュレス決済のトレンドについての知識を身につけ、それらを活用した創造的な解決策や新たなビジネスモデルを考える能力を養うことをめざします。

以上を学ぶことにより、キャッシュレスの重要性や有効性を理解し、将来の社会での役割を果たすための能力を身につけ、持続可能な社会の構築に向けた貢献意識も高まることを期待します。

1. Understanding the cashless environment and improving the ability to use it: The goal is to improve the ability to use cashless by learning more about the cashless environment in Japan and globally, and understanding how it is used and the risks involved in actual situations.

2. The role of cashless in solving social issues: The goal is to improve the awareness of the contribution that cashless can make to society by understanding more concretely the role of cashless and considering how it can be involved in solving social issues.

3. Technological innovation and cashless payment of the future: The goal is for students to gain knowledge of new technological innovations and future trends in cashless payment, and to develop the ability to think of creative solutions and new business models that make use of these innovations.

By learning the above, we expect students to understand the importance and benefits of cashless payment, acquire the ability to play a role in the future society, and increase their awareness of their contribution to the creation of a sustainable society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-IV」「法政DP-VI」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

[https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui\\_juyo/](https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/)

### 【授業の進め方と方法】

この授業に関するすべての連絡は学習支援システムで行います。講義内容により講師が交代する場合があります。毎回、学習支援システムより受講後アンケートを提出していただきます。講義はオンライン (ZOOM) で実施します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	キャッシュレス社会の今に迫る	(1) 講座の目的を知ろう！ 未来の決済と一緒に考える (2) 国家戦略に迫る！ 政府の推進策を理解しよう (3) 今、何が起きているのか？ 国内のキャッシュレス動向を解説 (4) 選択肢を広げよう！ 多彩な支払手段を徹底解剖
第2回	キャッシュレスの基本から学ぶ ～仕組みと魅力～	(1) 秘密を解明！ 仕組みを分かり易く解説 (2) キャッシュレスを支える！ 業界団体の重要な役割 (3) 安心して使うために！ 注意点を理解する
第3回	キャッシュレスの現場を体感しよう！	(1) 現場から学ぶ！ キャッシュレスの活用事例 (2) 競争激化！ 決済を取り巻くビジネスモデル (3) キャッシュレスを後押し！ 新札発行で社会はどう変わる
第4回	世界を変える！ グローバルなキャッシュレスの潮流	(1) キャッシュレス社会を築く国々の実情 (2) なぜ国によって違うのか？ キャッシュレスの多様性 (3) グローバル化が与える影響と展望
第5回	未来の社会を描こう！ キャッシュレス社会がもたらす新しい風景	(1) 社会を変える！ キャッシュレスがもたらす恩恵 (2) 新たな視点で見る！ キャッシュレスが導く可能性
第6回	扉を開け！ キャッシュレス時代を切り拓く鍵とは	(1) 普及を妨げる要因とは？ キャッシュレス化が直面する課題 (2) 次なるステップ！ ユーザー目線のアプローチ (3) デジタル社会を実現！ キャッシュレスの役割
第7回	あなたは大丈夫？ キャッシュレス社会の危険信号	(1) 警鐘を鳴らす！ 消費者被害ケーススタディ (2) 賢い消費者になろう！ 安心・安全な取引のヒント (3) 中間テスト
第8回	キャッシュレスで未来を変える！ 社会課題への挑戦	(1) SDGs 達成への道のり！ キャッシュレスの役割とは？ (2) 社会課題解決に向けた価値創造！ キャッシュレスの新しい可能性
第9回	キャッシュレス社会を支える法律の動向	(1) 決済に関わる法律の全体像 (2) 多様化する決済手段、消費者ニーズへの法律上の対応 (3) 消費者保護要請に対する法律の動向
第10回	キャッシュレスを支える！ 技術およびデータ分析の動向	(1) 認証技術の革新！ 最新事例を学ぶ (2) データ分析がもたらす新たなビジネスチャンス
第11回	キャッシュレスを支える！ 次世代テクノロジー	(1) AI 変えるキャッシュレスの活用事例 (2) API 連携の進化がもたらす新たな可能性
第12回	クレジットカード等の審査について学ぼう！	(1) スコアリングによる審査の仕組みを理解する (2) AI と信による新しい審査
第13回	キャッシュレスの未来を語ろう！ 最前線の挑戦	(1) 想像を超える進歩！ 過去の未来予想と新たなサービス (2) 常識を疑え！ 新サービスの創造
第14回	未来をデザイン／まとめ	(1) 次世代決済サービスをデザインするためのヒント (2) 最終テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習及び復習時間は、それぞれ2時間程度を標準とします。

The standard preparation and review time for this class is approximately 2 hours each.

**【テキスト（教科書）】**

なし。

**【参考書】**

各回の講義資料については、学習支援システムへ事前に掲載予定です。

**【成績評価の方法と基準】**

受講後アンケートの提出（30％）、中間テスト1回（30％）および最終テスト（40％）の点数により成績を判定し、単位付与の可否を決定します。なお、受講後アンケートの提出回数が全14回の講義中7回以下の場合は単位を付与しないものとします。

Grades will be based on the submission of post-lecture questionnaires (30%), a mid-term exam (30%) and a final exam (40%) and credit will be granted or withheld.

No credit will be given if the number of post-lecture questionnaires submitted is less than 7 out of the 14 lectures.

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度新規科目につき、アンケートを実施していません。

**【学生が準備すべき機器他】**

オンライン授業のため、PCを用意してください。

**【その他の重要事項】**

毎回、学習支援システムより受講後アンケートの提出を求めます。アンケートを集計し、講義内容の理解度、定着度の確認を行います。講義内容に関する質問があれば、次回講義以降に回答を行います。

**【Outline (in English)】**

In our country, where the birthrate is declining and the population is ageing, requiring increased efficiency and productivity in society, the promotion of cashless payments is essential for the development of society as a whole. It is therefore important to learn about (i) the cashless environment at national and international level, (ii) the role of cashless in solving social issues, and (iii) technological innovation and future cashless payments, in order to develop the ability to think of creative solutions and new business models.

